

解題

檀田区有文書

【檀田村について】

現在の長野市檀田にあたる地域。

檀田の地名は中世に「真弓田郷」として現われる。江戸時代になると、水内郡の一村として見える。松代藩領。江戸時代の初めの村高は四〇〇石程度。

明治十二年には水内郡に属し、明治二十二年からは若槻村に属した。昭和二十九年に長野市に属し現在に至る。（『角川日本地名大辞典 長野県』 角川書店 一九〇〇年）

【伝来の経緯】

本文書群は、檀田区から長野市立博物館が寄託を受けて收藏するものである。檀田区にかかわる文書も散見されることから、近年まで区長の引継ぎに用いられた文書群であることがわかる。

【文書群の特徴】

本文書群は、明治以降、昭和に至るまでの主に区にかかわる文書の多いことが特徴である。一方、近世にさかのぼる文書群は、寛文六年の水帳のほか、用水（四郎堰、五郎堰）にかかわる文書が確認される。これらはおそらく、区の重要文書として、近年まで区長の引継ぎに用いられたのであろう。